

## 令和6年度学校評価アンケート結果と考察

吉野川市立 飯尾敷地小学校

- ・実施日：令和6年12月3日～令和6年12月23日
- ・実施方法：WEBアンケート
- ・回収率：児童（3年生～6年生）94% 保護者 60%

### 【児童アンケート結果で評価が高かった項目】

※数値(%)は、肯定群2項目の合計

No	項目	R6(%)	R5(%)
1	学校で楽しく生活をすることはできましたか。	93.9	98.5
3	友だちやまわりの人を大切に、なかよくできましたか。	97.0	97.1
5	友だちや先生、お客さまにあいさつができましたか。	93.9	97.1
7	先生が教えてくれる勉強（授業）はよくわかりますか。	98.5	98.5
9	うがいや手洗いをして健康に気をつけることはできましたか。	90.9	95.6
14	係や当番、掃除に一生懸命取り組むことができましたか。	93.9	95.6
16	学校のきまりや約束を守っていますか。	92.4	97.1
19	タブレットを使った学習は楽しいですか。	95.5	95.6

### 【児童アンケート結果で評価が低かった項目】

No	項目	R6(%)	R5(%)
8	本をたくさん読もうとしましたか。	50.0	52.9

#### ◇評価の高い項目から

(No1、No3)

- ・様々な体験活動を積極的に取り入れ、年間を通して行事等を精選したり拡充したりしていることから、楽しくいきいきと生活できているのではないかと。

(No5)・朝会でのあいさつ奨励や人権委員会のあいさつ運動、おはようケヤッキー等の取組により、あいさつの意識は維持されているが、さらに取組を要すると考える。

(No7、No19)

- ・タブレット等の活用による学びの多様化もあり、学習への関心は高まっている様子が見られる。楽しむことから、学びを追求するツールとして活用の仕方を追求し、学力向上を図っていかねばならない。

(No14、No16)

- ・朝の立腰タイムや朝の学習があることで、1日の学習を落ち着いた雰囲気で行うことができている。教室入室後には、集団の一員であるという意識をもたせていることが表れていると思われる。係活動も工夫し、個々が責任と自覚をもちやすくしている。
- ・全般的に、児童の自己評価が高く、ポジティブ行動支援の効果が出ていると思われる。今後、生活や学習においてリーダーとなる児童を育成し、更に自主的に取り組む集団としての意識を高めていきたい。

#### ◇評価の低い項目から

(No8)・社会全体のデジタル化の影響もあり、活字離れに拍車がかかっている。児童の興味や関心を引くために、鴨島図書館と連携し、本の入れ替えを行ったり読書祭り等のイベントを実施したりしているが、改善には至っていない。

- ・石原勝成様の寄付金で図書を購入を予定しており、魅力ある本の購入や本が読みたくなる図書室等の環境づくりをし、学級担任による読み聞かせや週末読書の推進、家庭との連携も行いながら、読書の楽しさを伝えていく必要があると考える。

**【児童アンケート結果で評価が大きく変化した項目】**

No	項目	R6(%)	R5(%)
2	「早ね、早おき、朝ごはん」はできましたか。	77.3	82.4
4	ねばり強く最後までがんばれるようになってきましたか。	87.9	95.6
6	家庭での学習（宿題など）が、毎日きちんとできましたか。	81.8	89.7
13	お家の人と、友だちや勉強のことを話すことはありますか。	84.8	91.2
15	漢字や計算の勉強をがんばって、力がついてきましたか。	85.7	91.2
17	話をよく聞き、自分の考えを発表することができましたか。	84.8	79.4
20	休み時間は外で元気に遊んでいますか。	75.8	69.1

◇大きく変化した項目から

(No2、No4、No6、No13)	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の定着や家庭でのコミュニケーションについては、家庭の協力が不可欠となる。また、良好な心身の状態で学習に取り組むと、集中力や粘り強さが増してくる。引き続き、学校と家庭がよりよく連携していくためにも、啓発の在り方等を創意工夫していく必要があると考える。</li> </ul>
(No17)	<ul style="list-style-type: none"> <li>発言する機会や自己表現する機会を、学習の中で積極的に取り入れてきた成果だと思われる。個別最適な学びの推進により、個人が自信をもって学べていることや、ポジティブ行動支援の効果でもあると捉えられる。</li> </ul>
(No20)	<ul style="list-style-type: none"> <li>休み時間には、複数の教員が児童といっしょに外遊びに出て、個々の人間関係を大切にしながら、積極的に関わっている。この成果が表れていると捉えられる。</li> </ul>

**【児童と保護者アンケート結果で差がある項目】**

No	項目	児童(%)	保護者(%)
5	友だちや先生、お客さまにあいさつができましたか。	93.9	78.7
6	家庭での学習（宿題など）が、毎日きちんとできましたか。	81.8	87.2
7	先生が教えてくれる勉強（授業）はよくわかりますか。	98.5	86.7

◇差がある項目から

(No5)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童は、挨拶をしているつもりであるが、それが相手には、十分に伝わっていない状況だと思われる。相手に伝わる挨拶の指導が必要である。</li> <li>知っている人に対しては、挨拶ができるが、関わりの少ない人等に対しての挨拶は、十分だとは言えない。「明るく、いつでも、先に、続けて」を継続して指導する必要がある。</li> </ul>
(No6、No7)	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童は自己肯定感が高く、授業では分かったつもりになっていると思われる。それが定着するためには、繰り返しの学習が必要となる。これには、家庭との連携が重要であり、引き続き、学級や学校通信等で啓発していく。また、学習した内容の活用能力・応用力をつけていくことも必要である。</li> </ul>

**【保護者アンケート結果で評価が高かった項目】**

No	項 目	R6(%)	R5(%)
1	こどもは、楽しく学校生活を送ることができている。	91.5	98.5
3	こどもは、思いやりを持って友達となかよくできている。	97.9	100.0
8	学校は、学力を向上させるために取り組んでいる。	93.3	91.9
9	学校は、健康や体力を向上させるために取り組んでいる。	95.6	94.4
11	学校は、いじめや差別のない学校づくりに取り組んでいる。	93.0	87.9
12	学校は、保護者からの連絡や相談に迅速に対応している。	93.5	97.0
13	家庭では、こどもと学校のことについてよく話をする。	91.3	92.6
17	学校は、便りやホームページ、マチコミ等いろいろな機会を通じて各種情報や児童の様子を伝えている。	97.8	95.5
18	学校は、保護者や地域の願いに応えた教育活動を行おうとしている。	93.0	93.2

**【保護者アンケート結果で評価が低かった項目】**

No	項 目	R6(%)	R5(%)
5	こどもは、あいさつがよくできている。	78.7	82.4
14	家庭では、テレビやインターネット、スマホの使い方について子どもとルールを話し合っている。	70.2	80.9

◇評価の高い項目から

(No17)・学校は、児童の活動の様子を発信し、保護者は、行事等への参加の制限がなくなり、児童の様子をよく見るできるようになったことが安心感となり、上記にあげている項目についての肯定的な意見につながったのではないかとと思われる。

◇評価の低い項目から

(No14)・社会全体のデジタル化が進み、保護者を含めた家庭での使用頻度が高くなっており、インターネットやスマホの使い方については、家庭でのルールの徹底が急務と思われる。ルールを決めていても、それをすりぬけている可能性が高く、保護者も手に負えなくなりつつあるのではないかと危惧している。  
 ・学校としては、児童への指導と保護者への啓発が重要と考えており、外部講師等を積極的に活用し、啓発を進めインターネットやスマホの上手な使い方を推進していく。

**【保護者アンケート結果で評価が大きく変化した項目】**

No	項 目	R6(%)	R5(%)
2	こどもは、「早寝、早起き、朝ご飯」の生活習慣が身についている。	80.9	86.8
4	こどもは、勉強や運動でねばり強く取り組んでいる。	89.4	83.8

◇評価が大きく変化した項目から

(No2)・保護者の働き方や生活等が多様になり、基本的な生活習慣が身につけにくい家庭も増えてきていると思われる。しかし、睡眠や朝食の重要性は、啓発していく必要がある。

**※ 児童アンケート結果から**

学校生活全般について、概ね満足できる状態であることが判断できる。しかし、「学校が楽しい」「友だちとなかよくできている」については、肯定的な回答が100%になるよう、ポジティブ行動支援を推進し、引き続き教職員が一丸となって取り組んでいく。

**※ 保護者アンケート結果から**

学校の教育活動全般について、概ね満足できるという回答が寄せられている。昨年と比較しても数%の増減はあるが、回答の傾向は同様となっている。学校と家庭が情報共有をしながら、児童の「よいところ」を見つけ、自尊感情を高めたり思いやりの心情を育んだりすることにつなげていきたい。